6．発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉（敬称略）

会沢　泉、新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、井上晴江、内田信治、海老原サナエ、大井美智子、大曽根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、神木光治、川部栄子、小林こずい、小山エミ子、斎藤尽志、酒井　昭、佐久間ひろ子、佐々木定男、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、瀬戸加代子、高木千恵子、高橋明美、戸澤竹二、中嶋末子、仲里しげ子、永塚美千代、並木宗次、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、三村美代子、森脇やよい、山下一枝、若尾久美子、若林紀美代。

〈整理作業参加者〉（敬称略）

石垣ゆき子、小澤千恵子、小林登喜江、斎藤尽志、須藤さち子、杣木嘉図子、高橋けい子、丹治つや子、冨岡康子、中田藤子、中野和子

## 凡　　例

1．本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1)　縮尺は原則として

| | |
|---|---|
| 遺構配置図 | 1:300 |
| 遺物出土状況図 | 1:80 |
| 遺構平面図 | 1:60 |
| 炉などの詳細図 | 1:30 |
| 土器実測図 | 1:4 |
| 土器拓影図・石器実測図 | 1:3 |

(2)　遺構断面図の水糸高は海抜高を示す。（単位はm）

(3)　遺構図中の細数字は、床面もしくは確認面からの深さ(cm)を示す。

2．住居跡名・土坑名・集石名は、遺跡内の通し番号にしている。

3．胎土粒子に関する各項の基準は次のように定めた。

小礫；2.0mm以上、粗砂；0.2～2mm、細砂；0.2mm以下。

4．本書では、岩宿時代を使用した。これは、先土器時代・無土器時代・旧石器時代などと言われていたものである。発見遺跡名を時代名とした。

5．本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

のための精査を行なったところ、黒色土の落ちこみが各トレンチで認められた。落ちこみの性格・深さを確認するためトレンチの幅内で調査を行なった。その結果、歴史時代の建物跡、堀、井戸跡等であることが判明した。遺物は、カワラケ、常滑片、銅銭等が出土した。その後、本調査に移行することを考慮して、現地表面からの土層図をすべてのトレンチを記録化し、遺構の壁を保護するために遺構内に土のうを詰め、ビニールシート・板をかけて保護し1993年５月20日に発掘調査を終了した。

確認調査の結果にもとづき事業者である大井町と協議を行ない、開発予定区域全域を原因者負担による本調査を実施することとなった。このため大井町教育委員会社会教育課を事務局とする大井町遺跡調査会に調査を斡旋し、1993年5月12日から５月20日まで本調査を行なった。その結果、ほぼ開発予定地全域から縄文時代の陥穴１・土坑１、平安時代の住居跡１軒、歴史時代の井戸２・地下式壙１・方形遺構８・堀１・建物跡等の遺構を発見した。(現在整理作業中)

7　苗間東久保遺跡第19地点　　埼玉県遺跡 №30-020

1994年１月17日付けで、分譲住宅建設に伴う「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請地は、遺跡推定範囲のほぼ中央部に位置し、十分に遺構の所在が予想される地点で、隣接する東及び北側で、既に発掘調査で縄文時代の住居跡をはじめとする遺構群が多数発見されている。町教育委員会は、この点を事業者に対して理解を求め、２月８日から確認調査を実施することとした。

遺構の密度と、所在を確認するための調査と位置づけ、その後の本調査の事も鑑み、まず表土を約20cm程度を全面重機で鋤取った。その後２m方眼のグリッドを設定し、南北方向に南からＡ～Ｊ、東西方向に東から０～30の名称を付した。

調査は、排土処理を地権者の好意で隣地におけたため、円滑に進められた。本遺跡は縄文時代後期を主体とする遺跡で、しかも遺物包含層まで比較的浅いため、現地表下約25cm位から暗褐色土の該期特有の包含層を確認した。ただ、遺構のプラン確認までは、もう少し調査で掘り下げねばならず、２月16日に全部の遺構のプランをおさえるまでは、確認調査の範囲内で行なった。

その後継続して、３月25日まで原因者負担による本調査を行なうこととした。

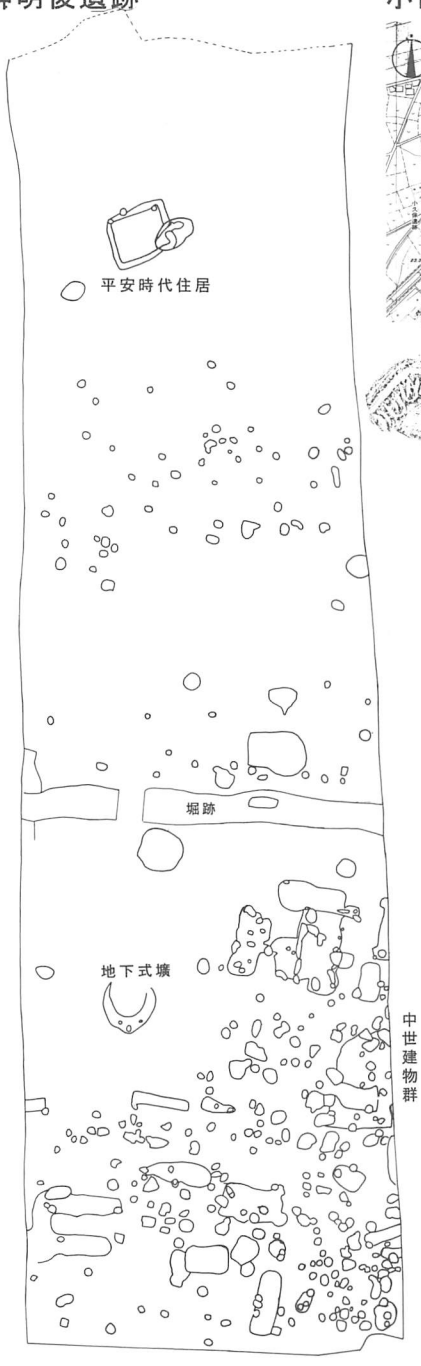
発掘調査の結果、縄文時代早期の陥穴１、縄文時代後期（称名寺式期）の住居跡１軒・同期の土壙５基・ピット群等の遺構並びに該期の土器を発見した。

8　小田久保遺跡第２地点　　埼玉県遺跡 №30-040

本遺跡は２回目の調査である。町内でもっとも内陸部に位置し砂川堀の左岸の西斜面から低位台地にかけて東西200m、南北100mほどの規模を有する縄文時代の複合遺跡である。標高26～25m。耕作中に採集された遺物によると、中期前半から同後半にかけての土器片が多く、当該期の集落が主体をなしていると思われるが、前期の黒浜式期の土器も注目される。

確認調査は、第５図のように幅２mのトレンチを４本設定し、重機にて表土を除去し、ローム面まで下げた。その後10月１日に遺構確認の精査を行なった。表土中より若干の縄文土器(勝坂式)の微細片と打製石斧が出土したが、遺構の存在は確認できなかった。

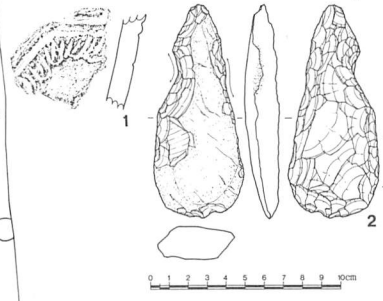
## 神明後遺跡

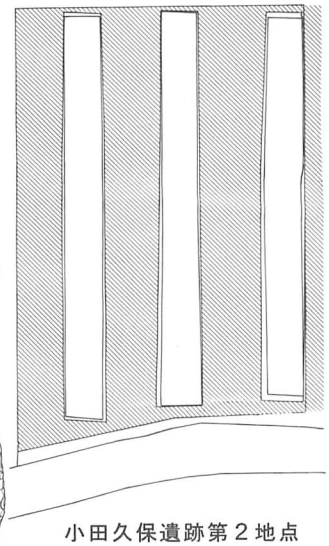



神明後遺跡第２地点遺構配置図（1／400）

## 小田久保遺跡

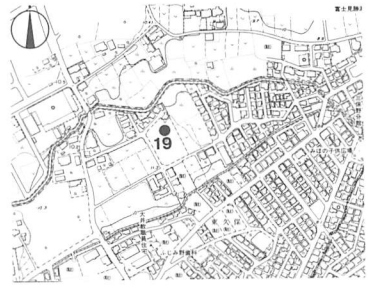
小田久保遺跡調査地点



小田久保遺跡第２地点

## 苗間東久保遺跡

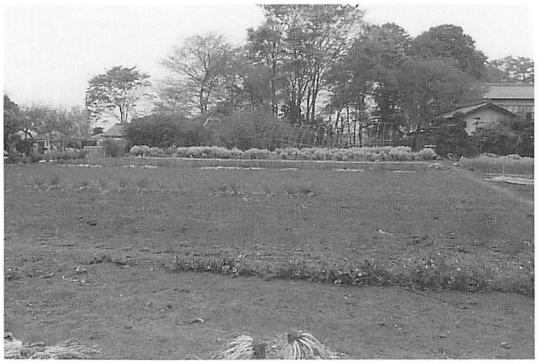



苗間東久保遺跡調査地点

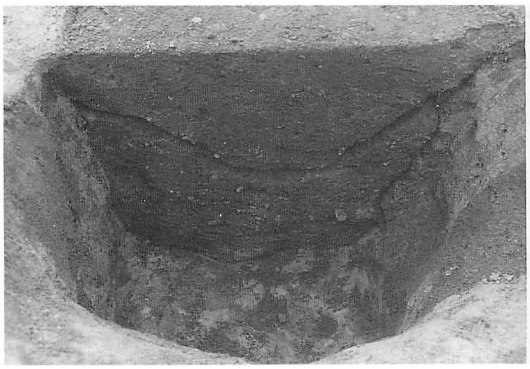
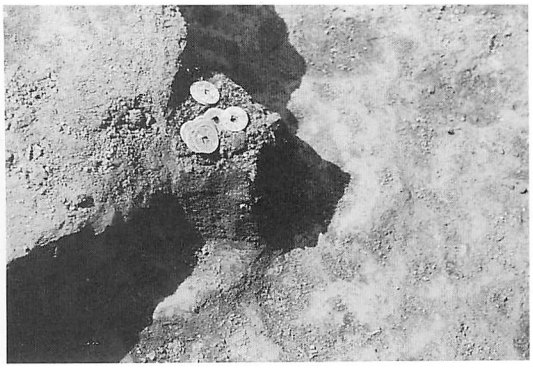
苗間東久保遺跡第19地点遺構配置図
（1／400）

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10m

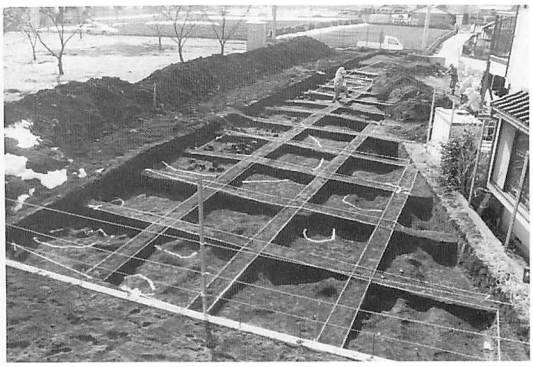
第５図　試掘調査位置図及び調査区域図(4)



神明後遺跡第 2 地点・遺構確認状況

土坑土層　　神明後遺跡第 2 地点　　銅銭出土状況



苗間東久保遺跡第19地点・遺構確認状況

小田久保遺跡第 2 地点・トレンチ